

タ、またたび特有ノ餘リ好マシクモナイ香氣ガ鼻ヲツキ、大シテ美味シクモアリマセンデシタ

(五) あかまつニモ時ニ三個ノ葉ヲ生ズル事ガアル

自宅ノあかまつニ三個ノ葉ヲ着ケタモノ、アルノヲ昭和三年ノ秋、其落葉シタモノニヨツテ知リマシタガ、ハカラズモ同四年ノ春又同様ノモノヲ拾ヒマシタ樹丈ガ高イ爲ニ生葉ニ就テハ觀察ヲマダ致シマセンデスガ、他ニ(あかまつノ他ニ)松ハ一本モナイノデスカラ、而シテ時ヲ隔テ、二回マデモ同ジ場處デ拾ヒマシタ事カラシテ是レハ我庭ノあかまつノ葉デアアルコト、思ヒマス、或ハ此ノ事實ハ既ニ知ラレテ居ルモノカトモ思ヒマシガ、小生ニハ珍ラシカッタモノデスカラ、ココニ書キマシタ

(六) 永久草

肥前長崎ノ温泉岳附近デハほそばのやまははこノ事ヲ永久草ト呼ブサウデアリマス、按ズルニ其花ガ非常ニ永ク持ツノデ斯ク申スノダト思ヒマス

○斷枝片葉 (其四十六)

牧野 富太郎

●捕魚用ニ使ハル、植物

子供ナドガ能ク川魚ヲ捕フル時河水ニ投ジテ魚ヲ弱ハラセルニ用ウル植物ニ色々アルガ其中ニえごのきガアル即チ其未熟ノ實ヲ春キテ之レヲ川ニ投ジ其目的ヲ達スル、又辛キ蓼ヲ用ウル場合モアル、又處ニヨリテハのぐるみ一名のぶのき(くるみ科)ノ生葉ヲ春キ之レヲ流レニ投入シテ目的ヲ遂グルコトモアル、此のぐるみノ實カラハ黃色ノ好染料ガ採レ此レデ染メタ織物ハ假令日光ニ曝シテモ容易ニ褪色シナイトノ事デアアル、兵隊ノ服ハ能ク此レデ染メルト聞イタ事ガアッタガタゞ其原料ガ豊富デナイノデ困ルト云フ事デアッタ

●芝居伽羅先代萩ノちさのき

「こゝちの裏のちさの木に／＼、雀が三足止ゝまつてく」



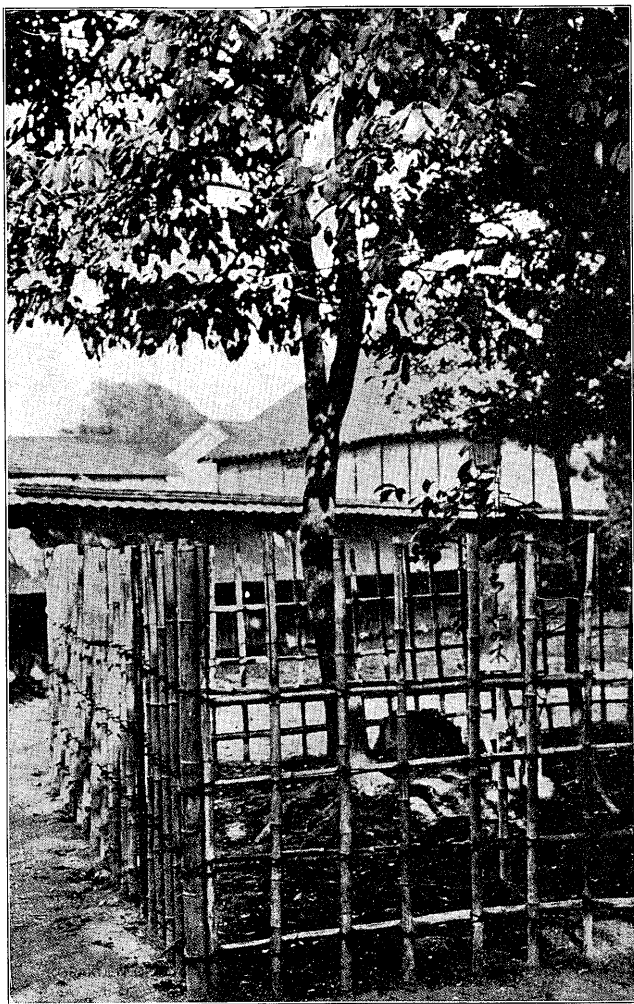
備前岡山後樂園内ちしゃのきの幼樹

（明治四十年頃ノ撮影）

建札ニ農科大學講師牧野富三郎氏取調トアルハ須ラ  
ク東京帝國大學理科大學講師牧野富太郎氏取調トス  
ベキ誤デアッタ

あかつら、あ  
かんちゃ、あ  
ぶらちゃん、  
さぼん、しゃ  
うから、ひく  
ろぎ、ずえ、  
したまさ、し  
たましぎノ數  
多キ土言ガア  
ル、傘ノろく  
ろヲ製スルハ  
此樹デアアルカ  
ラ前記ノ様ニ

トハ先代萩ニアル千松ノしめり聲デ諷ツタ雀ノ歌ノ一ト節デアアル、此ちさの木即ちちしゃのきハドンナ樹カト云フト是レハ多分えごのきヲ指シタモノデアラウ即チ此樹ハ廣ク我邦ニ分布シ陸前ノ仙臺邊デモ普通ニ出逢フ者デアアルカラデアアル、通名ヲえごのきト云ツテ居ルガ此樹ハ國ニヨリ種々ノ方言ガアツテ其稱呼ヲ異ニシテ居ル、先ニ山林局デ編纂シタ『日本樹木名方言集』大正五年發行ニ據レバいっちゃ、ろくろぎ、ほとゝぎす、とうひぼ、ちようめん、ちない、ちなえ、ちさのき、おさのき、ちしゃのき、おしゃのき、づなえ、づさ、くろぢしゃ、こはづ、こはぜ、こはぜのき、こやす、こやすかき、こめちや、こめぢしゃ、こめみづ、えごつつる、あかちや、



ろくろぎノ名ガアル、此實ハ其果皮ニ毒ガアルノデソレデ魚ガ酔フノデアル、其種子ハ褐色デ種皮ハ極メテ堅  
 イガやまがら名鳥ニ之レヲ食ハストアノ嘴デ容易ニ之レヲ碎クニハ一驚ヲ喫スル、本種ハえごのき科ニ屬スルガ

上ノ状態  
 同ノ今日

別ニむらさき科ニ  
 屬スルモノニちし  
 ヤのきト云フ落葉  
 喬木ガアル是レハ  
 暖地ノ産デ九州四  
 國ニハ野生ガアル  
 ガ處ニヨツテハ植  
 エラレテ居ル別ニ  
 美麗ナ花ガ咲ク譯  
 デハナイガ見馴レ  
 ス處デハ其姿ガ何  
 トナク珍ラシク感  
 ゼラル、カラデア  
 ラウ、幹ノ膚ガ柿  
 ノ木ニ似テ居リ又  
 葉モ同様ナ恰好ヲ  
 シテ居ルカラ一ニ

かきのきだましトモ稱スル又たうびはノ名モアル、此樹ノ染料デ染メタモノガ筑前デノちしヤ染ダトノ事デア  
 ル、中國ナル備後ノ或ル地ニ此樹ノ大木ガアツテ同地方ノ教育會デ之レガ繪はがきヲ造リ此ちしヤのきヲ芝居  
 ノ先代萩ニアルちしヤのきダト其レニ記シテアツタノヲ見タノデ其當時私ハ同教育會ニ對シテ其レハ他ノちし  
 ヤのきデアツテ此ちしヤのきデハナイ事ヲ注意シテ置イタ事ガアツタガ是レハ畢竟兩方ノ木ニ同ジ名ガアルカ  
 ラ誤マラレタモノデアアル、又私ハ明治三十九年ニ備前岡山ノ後樂園デちしヤのきト榜標セルかごのき(くすの  
 き科)ヲ見シ際同時ニ同園ノ一隅デ眞正ノちしヤのき(むらさき科)ノ稚樹ヲ見出シ之レヲ同園ノ管理者ニ告  
 ゲ一方かごのきニ添ヘタ間違ノ建札ヲ撤去セシメ又一方眞正ノちしヤのきヲ保護セシメタ、此ちしヤのきハ  
 元ト大樹ナリシ切口ノ痕跡ガ地面ニ存シ其レヨリ藥ヲ生ジタモノデアツタ、爾後同園デハ其周圍ニ竹柵ヲ繞ラ  
 シ今ハ早ヤ此ニ掲グル寫眞ノ様ニ可ナリノ大サニ生長シ居ルガ始メノ時分ニハ前々頁ノ寫眞ニ見ル様ニ私ノ取  
 調ベタ由ノ建札ガシテアツタガ今日ハ單ニちしヤの木ト書イタ札ガ建テアツテ其レガ繪はがきニナツテ居ル

## ●やまぶきの實

やまぶき (學名ハ

Keria japonica DC)

漢名ハ棣棠花

『秘傳花鏡』出ツ、  
但シハ重咲品ヲ指ス

いばら科)ノ

花一重咲ノモノハ花後ニ略ボ圓キ小キ瘦果ガ一花ニ三五粒ヅ、出來ルノハ普通ノ事デ何ニモ物珍ラシク騷グニ  
 ハ當ラナイガ其レガはでやかナ花ニ似ズシテ餘リニ小ク且色モ目立タズ實ラシクモナイカラ誰モ氣ノ附ク者ガ  
 少ナイユエニ昔ノ人々がやまぶきニハ實ガ無イモノト早合點シテ居ツタノモ無理ノナイ所デアラウ、實ト云ヘ  
 バ梅ノ實カ桃ノ實ノ様ニ目立ツテ認メ得ラル、カ或ハ小クテモ澤山ニ群リ簇ツテ遠目ニデモ認メ得ラル、モノ  
 カ又或ハ小クテ一ツ一ツニナツテ居テモ色ガ赤トカ紫トカデ人目ヲ惹ク様ナモノカナレバ實ガ出來タト誰レモ  
 ガ直グニ感ズルデアラウガやまぶきの様ニ其實ガ小クテ色ガ緑デ且疎ラニナツテ綠葉ト同ジ色ヲ呈シ其レガ葉  
 間ニ隱見シテ居テハチョット見テハ氣ガ附カズ今日ノ人デサヘモノ様ニ古來餘リ注意ヲ惹ク所マデハ行カナカ  
 ヲタト考ヘルノガ常識的ナ見方デアアル、ソレデ中務卿兼明親王ノ歌ノ「な、へ八重花ハ咲ども山吹のみのひと

つだになきぞかなしき」モ又萬葉集ノ「花咲きて實はならねどもながさけにおもほゆるかも山ぶきの花」ノ歌モ何モ必ズシモ實際ニ實ノ結バヌ八重咲ノやまぶきデナケレバナラスト強辯スル必要ハ少シモナイト思フ、右ノ時分ノ歌ヨミシ普通ノ人々ハ何モ今日ノ植物學者ノ様ニ綿密ニ其レ等ノ委曲ヲ觀察シテ居ラウ筈モナイノデアルカラ右ノ考ヘハ其時代ニ副フタ穩當ナ見方デアラネバナラスト私ハ信ジテ居ル、其レ故「七重八重」トハタヤやまぶきノ花ノ集マリ重ナツテいとも盛ニ咲イテ居ル有様ヲ形容シタモノニ過ギナイノデ此處ハ必ズシモ一概ニ八重咲ノやまぶきデナケレバナナイト云フ譯ノモノデハナイ其ンナ窮屈ナ融通ノキカヌ愚劣ナ考ヲ擅ニスルノハ半可通ナ植物學者流ノ爲ル事デ此ンナ人ハ鬼ノ首デモ取ツタ様ニえせ新知識ヲ振り廻シ却テ物笑ヒノ種ヲ蒔テ知ラヌ者デアル

### ●歌ニ在ルむぐら、やへむぐら

彼ノ「やへむぐらしげれる宿の淋しさ

に人こそ見えね秋は來にけり」ノ歌ノ此やへむぐら(又やへもぐらト呼ブ)ハ秋草デアル所ノ今日ノかなむぐらノ事デアラネバナラスト六ヶ敷論ズル人ガアルガ私ノ考フル所デハ此ンナや、こしい論ヲスル必要ハ少シモナイト思フ、此歌ノやへむぐらハ八重ニ繁ツタ雜草ノ事デ何モ殊更ニ一ツノ草ヲ限ツテ指シタモノデハナイトスル方ガ歌ノ情モ能ク現ハル、ノデ恐ラク此歌ヲ咏ンダ惠慶法師モ亦其ンナ意デアッタラウト想像スル、私ノ考フル所デハ今日やへむぐらハ一種ニ限ラレタ草ノ名トナツテ居レドモ昔ハサウデハ無カッタト思フ、是レハ恰下昔かしハノ名ガ汎ク食物ヲ盛ル葉ノ名デアッタモノガ今日デハ唯一種ノ木即チなら屬(Quercus)ノ謂ユルかしハガ獨リ其名ヲ專有シテ居ル様ナモノデアアル、私ハ未ダ其語原ヲ能ク知ラナイカラ此ニ確タル根據ハ持タナイケレドモむぐら(又もぐら)ハ是レハ雜草ヲ指シタモノデ何モ一ツノ草ニ限ツタ名デハナイト考ヘタイ、やへむぐらノやへハ八重デ是レハ其芊々ト繁茂シテ居ル狀ヲ形容シタ言葉デアアル、此繁リニ繁ツタ雜草ヲ呼ンダ言葉ガ後世ニ一種ノ草ヲ指ス様ニナツタト考フルノガ何トナク穩當ナ感ジガスル、萬葉集ニ在ル「何かにあらむ時にか妹をむぐら生のいやしき宿に入り居せなむ」、「念ふ人來むと知りせばやへむぐら覆へる庭に珠敷か

ましを」ノ歌ヲ見テモ之レヲ雜草トスル方ガズツト眞趣ガ浮ビ出ルヤウニ覺エル

## ●そばのき

古書ニ

此樹ノ名ガ出テ居リ人ニヨツテハ其レガ何ノ木ダカ詳カデナイト書イテアツタ書物ヲ見タ事ガアツタガ此レハいばら科ノかなめもちノ事デアツテ海南ノ土佐ノ國デハ今日尙土人ガ其名デ此木ヲ呼ンデ居リ其處ニハ普通山地ニ之レガ自生シテ居ル、材ハ頗ル堅ク葉ハ冬ヲ凌イデ綠色デ夏ニ白キ小花ガ集マリ着キ秋ニあづき大ノ赤キ圓實ガ枝頭ニ攢簇シ小鳥ガ能ク之レヲ食スル

## ●むぎなてしこ

南歐ノ原産デ *Tragopogon porrifolius* L. ノ學名ヲ有スルミク科ノ越年艸ガアツテ其直根ヲ食用ニ供スル、其味ガ牡蠣ニ以テ居ルト云フノデ俗ニ *Vegetable-Oyster* (野菜牡蠣) トモ又 *Oyster-Plant* (牡蠣植物) トモ呼バル、又 *Salsify* ノ別名モアル、我邦

今日デハ普通ニ之レヲばらもんじん (婆羅門參) ノ名デ呼ンデ居ルガ此レニハ共ニ舊クカラむぎなてしこノ稱呼モアル、即チ其葉ガ麥ノ葉ノ様デ其花ガなでしこノ花ノ様ダト云フ見立テデアル

## ●もみぢあふひ

北米原産ノあふひ科宿根草ニ *Hibiscus coccineus* Walt. ト云フ者ガアツテ今デハ邦内諸處ニ觀賞植物トシテ栽植セラル、ヲ見受クル、頗ル丈夫ナ草デ莖高ク葉ハ掌狀ニ深裂シ濃赤色ノ大形花ヲ發ラキ美麗デアルもみぢあふひトハ其葉形カラノ名デアラウガ其花色モ赤クテ紅葉色ヲ呈スルカラ旁ガタ都合ガヨイ、本品ガ始メ我邦ニ渡ッタノハ徳川末葉時代デ當時ハ之レヲ紅花黃蜀葵ト稱シタ

## ●番茉莉

なす科ノ觀賞植物ニ往時セ

イテラホームト呼ンダモノガアツタ是レハ *Brunfelsia Hopana* Benth. デアル、此小灌木ハ南米ブラジル並ニ西印度ノ原産デ徳川末葉時代ニ我邦ニ渡リ江戸 (今ノ東京) デ始メ番茉莉ト呼ンダ者 (大淵祐玄ノ説) デアル、即チ此屬ノ者デ一番早ク此品ガ日本ニ來ッタ

## ●番素馨

のうぜんかづら科ノ常綠藤本デ徳川末葉

時代ニ我邦ニ渡來シタモノニ番素馨ト和稱シタ者ガアル即チ *Pandorea jasminoides* Schum. ノ學名ヲ有スル者デ始メハ之レヲ *Tecoma jasminoides* Lindl. ト稱シタ、今日吾人ハそけいのうぜん (素馨紫葳ノ意) ノ名デ呼ンデ居ルガばんそけいの稱ハ一番早ク出來タ和名デアル、又だいのけい (大素馨ノ意) トモ名ケラレタ